

岡南こども園 自己評価報告書（令和4年度）

<評価> 十分できている：3 できている：2 努力が必要：1

評価項目	平均評価	振り返りと課題
1 基本項目		
1 教育・保育の基本(認定こども園教育・保育要領)を理解している。	1.8	○すべての子どもたちが、安心して自分らしさを発揮して過ごせるようなかかわり方を全職員が行うよう、また園の理念や方針に沿った教育・保育をしていけるよう取り組んでいく。 ○保幼小中連携の意義について、職員に一層の理解を促す。 ○気持ちが不安定になっている子どもへの保護者と連携をとった対応を行いたい。 ○園の方針をよく理解した上で、時代に合った教育・保育が行えるように、教育・保育の情報を得ていく努力をしていく。 ○複数担任の中で、協力体制を大切に円滑なクラス運営を行いたい。
2 園の理念や教育・保育目標を理解している。	2.3	
3 園の全体的な計画を理解している。	2.2	
4 園の理念や方針に基づき、指導計画を立てている。	2.3	
5 定期的に自己評価をして、教育・保育の改善に努めている。	2.1	
6 教育・保育の計画や実践に向けて、創意工夫に努めている。	2.0	
7 自分の教育・保育の良さや課題を認識している。	2.1	
8 すぐにでも取り組まないといけない課題の改善に努力した。	2.2	
9 保育雑誌や専門書などを読んで教育・保育の情報を集めている。	2.2	
10 園の会議などで子どもの利益を一番に考えて発信している。	2.3	
11 業務上知り得た個人情報などの秘密を守っている。	2.9	
2 子どもとのかかわり		
【生命の保持・心の安定】		○子どもとじっくり接する時間が限られている。なるべく多く声をかけ、接する時間を作り、個々の気持ちに寄り添っていきたい。 ○配慮が必要な子に対しても、冷静に観察しつつ、優しく丁寧に対応するよう意識した。 ○その時々の子どもの気持ちに寄り添う教育・保育をすることができた。 ○子どもひとりひとりの発達を理解するよう努め、職員間でも共有した。 ○子どもの気持ちを大切に、子どもの成長につながるように対応したい。 ○マスクで口元が見えず、表情が見せられない分、言葉がけや雰囲気ですていさが伝わるよう心がけた。
12 ひとりひとりの発達を理解している。	2.4	
13 ひとりひとりの生理的欲求が満たされるように配慮している。	2.5	
14 登園時に優しく声をかけるなど、状況に応じて対応している。	2.7	
15 わかりやすい言葉で穏やかに話かけている。	2.4	
16 子どもが何を求めているのか、常に配慮して接している。	2.4	
17 子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するよう努めている。	2.5	
18 制止やせかす言葉を不必要に使わず、ひとりひとりに合わせた対応をしている。	2.2	
19 「あとで」などと待たせず、なるべくその場で対応している。	2.1	
【健康・安全】		○子どもたちが自由に用具や素材を使って制作遊びを楽しみ、発表できる機会を作っていきたい。 ○体を動かす活動を取り入れながら、危険を意識して行動できるよう働きかけることが積極的に行えた。 ○異年齢の子どもとの関わりが少なかったが、集会などに参加できた時に、年上の子の様子を見たりできるよう声かけいしてきた。 ○地域の方や高齢者の方との交流の機会が少ないので、来年度は行事に取り入れられるよう願っている。
20 食事や排せつなどの生活に必要な活動に自ら取り組めるように配慮している。	2.4	
21 食事やおやつを楽しめる雰囲気づくりをしている。	2.4	
22 野菜を育てたり調理をしてくれた人への感謝の気持ちや命を大切に育んできられるように働きかけている。	2.2	
23 好き嫌いや食べ残しを直すために過度に叱らないよう配慮している。	2.6	
24 トイレの後や食前の手洗い等、清潔にする習慣が身につくよう働きかけている。	2.6	
25 体を動かすことを楽しむよう働きかけている。	2.4	
26 危険を意識して行動するよう、安全について指導している。	2.5	
【人とのかかわり】		
27 友だちとの関わりで、友だちの良さや大切さに気付けるようにしている。	2.4	
28 子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように配慮している。	2.3	
29 順番を守るなどのルールが身につくように配慮している。	2.6	
30 活動を通して、共同の遊具や道具を大事にすることを体験できるようにしている。	2.3	
31 人と心が通じ合う喜びを伝えるように接している。	2.4	
32 異年齢の子どもと関わることを大切にしている。	2.0	
33 外国の人や文化の違う人に親しみをもちつ機会を作っている。	1.2	

34	地域の人や高齢者と親しむ機会を作っている。	1.0	
35	家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちを育てている。	2.3	
【表現活動】			
36	美しいものに感動したり、イメージを広げたりする機会を作っている。	2.1	
37	感じたことや考えたことを自由に表現する機会を作っている。	2.1	
38	子どもが自由に歌ったり踊ったりすることを楽しめるようにしている。	2.4	
39	様々な素材や用具と接し、自分で工夫して遊べるようにしている。	1.8	
40	子どもの作品を大切に扱い、工夫して飾るなどしている。	2.4	
【言葉】			
41	心のこもった挨拶をしている。	2.7	
42	正しく丁寧な言葉で話かけている。	2.4	
43	「ありがとう」や「ごめんなさい」などの言葉を、相手の気持ちを大切に指導している。	2.6	
44	わからないことを子どもが聞けるなど、安心して話ができる雰囲気を作っている。	2.4	
45	子どもが人前で話をする時に、相手にわかりやすく話せるよう援助している。	2.1	
46	読み聞かせの時に、言葉の楽しさなどが伝わるように配慮している。	2.6	
3 保育環境			
【環境作り～心地よい生活の場】			<p>○コロナ禍にあって、遊ぶ場所、時間、仲間などを制限せざるを得なかったことが残念であった。</p> <p>○子どもたちの生活の場が心地よい場となるように工夫していきたい。</p> <p>○安全・安心で過ごすには、職員間での声かけ、話し合いが必要である。</p> <p>○秋の散歩で虫やドングリを見つけたり、冬の雪遊び、玄関の水槽のウーパールーパーの観察など、動植物への関心を高められた。</p> <p>○相互に相談し、全クラスが遊戯場を使って体を動かしたり、活動内容を柔軟に変更したりして、静と動の活動をいしきて生活することができた。</p> <p>○場所・空間を区切って活動を分けることで、落ち着いた雰囲気の中で安全に配慮した活動を行うことができた。</p> <p>○月齢の低い子どもがより楽しめるおもちゃ遊びの環境作りを進める工夫が必要である。</p> <p>○マットや階段、滑り台を組み合わせたアスレチック遊びが冬場の体を動かす楽しい遊びになった。</p>
47	常に公平で温かい態度や言葉づかいで子どもに接し、信頼関係を築くようにしている。	2.6	
48	ひとりひとりが安心して過ごせる環境作りを心がけている。	2.5	
49	保育室の温度や湿度、通風に配慮している。	2.7	
50	適切な声の大きさに接している。	2.4	
51	好きな遊びができる環境が整えられている。	2.0	
52	自然との触れ合いを大切に心が豊かになるよう配慮している。	2.3	
53	トイレや手洗い場を清潔に保っている。	2.6	
54	遊具、おもちゃ、砂場などの点検、消毒を定期的に行っている。	2.4	
55	必要な場所に転倒防止策をしている。	2.2	
56	不審者などの侵入を防ぐ対策をしている。	2.2	
【環境づくり～成長を促す】			
57	発達に合ったおもちゃや遊具を用意している。	2.3	
58	子どもの動線を考えて、遊具や用具を配置している。	2.3	
59	子どもが身近な動植物に触れ合う機会を作っている。	2.1	
60	ひとりひとりの興味に合わせて好きな遊びが出来るようにしている。	2.2	
61	園外保育で、公共機関などを利用し地域に興味を持てるようにしている。	1.4	
62	伝統的な行事を生活の中に取り入れている。	2.4	
63	日常的な生活や環境の中で、標識や文字に関心を持つ工夫をしている。	1.9	

4 保護者とのかかわり			
【情報の発信と受信】			○保護者には安心感を持ってもらえるように丁寧に対応し、支援していきたい。 ○信頼関係が築けるよう、日々の小さなコミュニケーションが大切であり、努力が必要である。 ○送迎時にもう少し保護者と話ができる環境があればいいと思う。 ○トイレトレーニング等、家庭と園での様子を保護者と共有して進めることでよりよい保育が行うことができた。 ○個別面談等を通して、家庭での様子や保護者の悩みや願いを聞くことができ、園での様子を詳しく伝えることができた。 ○個別面談は、春と秋に行えると、より一層家庭や園での様子を共有することができると思う。 ○家庭と園とが同じ目標に向かって子どもたちに接する大切さを感じた。
64	教育・保育の方針や内容を保護者にわかりやすく説明している。	1.6	
65	個々の家庭の養育方針を理解している。	1.8	
66	必要に応じて、保護者との個別面談を行っている。	2.1	
67	緊急時は電話などで迅速な連絡を行っている。	2.6	
【支援】			
68	家庭と協力して、子どもが健康的な生活リズムを見にかけられるようにしている。	2.4	
69	子どもの育ちの過程を伝え合い、共通理解に努めている。	2.7	
70	悩みや不安を話せるように心を開いて対応している。	2.5	
71	保護者の保育参加等、子育てについて共通理解を得るための機会を設けている。	2.0	
【マナー】			
72	すべての保護者に対して、親しみを込めた挨拶や会話をするように心がけている。	2.7	
73	丁寧な言葉や敬語を使っている。	2.6	
74	子どもの体調不良等の連絡時の伝達方法に配慮している。	2.6	
75	苦情や要望には、謙虚に話を聞いて対応している。	2.6	
5 ほかの保育者とのかかわり			
【良好な関係と協働性】			○職員ひとりひとりが今後も良好な関係を築き、より良い教育・保育ができるよう語り合えたらよいと思う。 ○園内研修や職員会議で話し合う機会が増えた。 ○互いに意見交換したり、提案したりする時間がより多くなることが望ましい。 ○報告・連絡・相談をするように心掛けているが、話し合いをより多く行えるようにしていきたい。 ○職員の人数が増え、報告や相談をすることができる機会が増え、協力し合えることが多くあった。 ○行事内容が全職員に共通理解されていないことがあった。クラス内では話し合いができていても、他のクラスとはできないことがあり、共通の理解が図れないことがある。 ○悩んだり困ったときは声を出し、他の職員に助けってもらったりアドバイスをもらったりしている。一人では難しいことも協力し合うことで前に進めることが多い。 ○受講した研修の内容を職員課で共有する機会を増やしたい。 ○子育て支援センターにより多くの家庭から来てもらう方法を検討する必要がある。
76	園長、副園長、主幹、副主幹、リーダー、同僚等を尊重し、良好な関係を築いている。	2.6	
77	園長、副園長、主幹、副主幹、リーダー、同僚等の言葉を素直な気持ちで受け入れている。	2.6	
78	報告や連絡、相談をするよう心がけている。	2.7	
79	互いの状況や役割を理解し、協力や援助をしている。	2.6	
80	園が目指す目標に向けて互いに協力している。	2.5	
【向上】			
81	自己評価をもとに、職員間で教育・保育内容に対話を重ねている。	2.0	
82	教育・保育の良さや課題を話し合っ明確にし、見直しや改善につなげている。	2.1	
83	研修などを通して、互いに知識や技術の習得を図っている。	2.0	
84	子育て支援や地域開放、地域連携のあり方について、職員間で話し合っている。	1.4	

◇研修

- ・年間研修回数
：外部研修43回（オンラインを含む）、内部研修20回
- ・受講人数（延べ）：98名（外部研修）
- ・その他、キャリアアップ研修等受講